

産業建設常任委員会

10月1日～3日

公共交通を軸とした
コンパクトなまちづくり

富山県富山市

富山市では、利用者減少で廃止の危機に瀕したJR富山港線を路面電車化し、新しく生まれ変わった「富山ライトレール」を核としたコンパクトなまちづくりが行われていた。ライトレールは、高水準のバリアフリー設計で、利便性の高い市民の足として定着していた。

地域資源連結循環型農村を実現

福井県池田町

池田町では、町と住民が一体となり、地域資源連結循環型農村を実現していた。その内容は、生ごみの堆肥化による「食Uターン事業」と、化学肥料を使わず農薬も1回以下にするなど独自の栽培基準を設定した「池田町ゆうき・げんき正直農業」、また収穫物は福井市内のアンテナショップ「こっばい屋」で販売するというものであった。わが町の施策に生かす多くのヒントを得ることができた。



堆肥センター「あぐりパワーアップセンター」の視察

委員会

◎委員長
○副委員長



三沢基地内の視察

三沢基地は、そのほとんどが三沢市に位置し、日本で唯一、米軍・自衛隊・民間の共用が行われている。市では、防衛省と人事交流を図り、施設整備を進めたり、基地との共存共栄を目指し、小・中学生のホームステイや英語指導助手派遣、イベント開催など豊富なメニューで交流を行っている。基地問題の住民協働での働きかけや、交流の在り方は大いに参考となった。

青森県三沢市

基地対策特別委員会

10月23日～24日

◎上野 勝 ○近藤 浩 青山 晋
原 成兆 大坪 国広 小山 典男
下野 義子 齋藤 成宏

基地の存在を生かしたまちづくり

交通環境対策 特別委員会

10月7日～8日

◎島 英之 ○谷 四男美 竹嶋 久雄
森 亘 小池 信一郎
高水 永雄 石川 修 小川 龍美

視察報告

モノレール開業で地域活性化に貢献

千葉県千葉市

千葉市では、交通混雑の緩和、地域間の有機的な結合を図るための都市交通としてモノレールを選択した。現在、年間約1620万人の利用があり、重要な公共交通機関として機能し、周辺地域の活性化にも貢献している。今後、多摩都市モノレール延伸においても、地域の活性化が期待されるので、実現に向け一層の働きかけが重要であると感じた。



千葉モノレール「動物公園駅」の視察

官民協力で市民サービス向上

千葉県船橋市

船橋市では、交通不便地域の解消、高齢者の移動手段の確保などを、経費を抑えながら実現させる手段として、民間の送迎バスに着目した。現在、5事業者の協力を得て実施しており、住民からも高い評価を得ているとのことである。わが町の交通不便地域解消の施策として大いに参考になった。

厚生文教常任委員会

◎森 亘 ○大坪 国広 谷 四男美
小山 典男 下野 義子 齋藤 成宏

11月5日～6日

わかりやすい目標で教育力が向上

滋賀県高島市

高島市では、各公立学校、児童・生徒が自ら数値目標や成果目標を公表するマニフェスト事業を実施している。その結果、児童・生徒、教育関係者の取り組みだけでなく、家庭や地域の方々の教育への参画が向上したとのことである。この視察を通じ、教育力向上への施策として、町教育委員会に具体的な目標作りを提言した。

外国人生徒の学習支援とIT活用で学校復帰

岐阜県可児市

可児市では、外国人児童に対しては、最低限の日本語やルールを習得させる施設を設置し、また、不登校の児童・生徒に対しては、ITによる学習ソフトの活用やメール相談などを行い、学校復帰を図っていた。児童・生徒一人一人に向き合おうとする市の教育に対する姿勢は、大いに学ぶものがあった。



外国人生徒の学習支援を行う施設「ばら教室KANI」の視察